



「毎年恒例のもちつき。みんな楽しみにしています。」

パフテスト心身障害児(者)を守る会

愛の手を

第178号

発行責任者
 社会福祉法人 パフテスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害児施設 久山療
 育園重症児者医療療育センター
 理事長 山田 雄 次
 編集責任者 馬 原 哲 治
 福岡県粕屋郡久山町大字
 久原 1869
 ☎(代) (092)976-2281
 FAX (092)976-2172

年末街頭募金で強められて

看護部長／評議員 曾根崎加代子

例年、年末の街頭募金は近隣教会、保護者と共に私たち職員も参加する。

マイクでの呼びかけの横で私たちはチラシを配り募金箱を胸に立ち、重症心

身障害児者の存在と久山療育園の働きを知ってもらうための支援を、幼児から高齢者までの参加者が一丸となって呼びかける。子どもを亡くされた保護者も参加され、再会を喜び合う場となる。寒さの中で1枚のチラシを受け取っていただいた時、募金していただいた時の喜びを参加者全員で共有する。チラシを受け取らない方々の耳にも呼びかける声は届いていると確信しながら、運動体の一員としての一体感(絆)を体験し、共に生きる思いが与えられる。

久山療育園に入職して25年が過ぎた。私が「重症児者と共に歩む」と決心した原点は通園での勤務にある。在宅の保護者の方々が生活の中で子どもたちを大切にし、互いに支え合う姿に接した時であった。在宅があつて入所施設が出来たことが解ったからである。

振り返ると通所事業や短期入所事業の拡大、医療的ケア必要者への対応、ボランティア受け入れ態勢の確立、実習生や見学者の受け入れなど、さまざまな点で久山療育園は他施設に先んじて「開かれた施設」として歩んできた施設であることが解る。

通園ではA型通園を守るために私たちの呼びかけに対して快く出席してくださった利用者や保護者の方々、母子通園から単独通園への転換、18才の卒を取り払い、卒後の社会参加の場としての通園実現、腰を痛められた家族の要望で入浴を病棟で実施、療育活動の定着など、今では当たり前となっていることの一つが試行錯誤の積み重ねであった。実現の陰には利用者保護者の声を聞きながら歩んできた久山療育

園の姿があり、全国からの熱い祈りと支援があつた。

障害児者の医療・福祉情勢は経済論理から年ごとにめまぐるしく変化し、在宅支援体制は整わなまま市町村へ移行、成人と小児が分離され、在宅成人は医療難民化している。利用者は加齢に伴い医療的ケアが必要な人が増加、小児看護領域であつた重症心身障害児看護は小児から老人、看取り緩和ケア、在宅支援まで行う時代となつている。

重症児者看護は多職種によるチームで行われ、生活支援のすべてがその人の持っている可能性を引き出す「療育」という視点で関わることが大切にされてきた。環境を整え、身体にかかる負担を最小限にして健康の維持につとめ、言葉というコミュニケーションスキルが乏しい方々の様々なサインをキャッチし異常の早期発見に努める人としての生活と命が尊重される。

看護管理者の役割は共に歩む人づくりと、命を守るための技術向上をめざすことにある。

重症児者施設で働くことは忍耐を要し、困難も多いが喜びも大きい。利用者との関わりの中では主がいつも共にいて支えて下さることを体験する。「だけれども、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」(マタイ7章8節)

主張

新しい二つの「気づき」について

理事長 山田 雄次

今回は12月と1月の2ヶ月の間で与えられた二つの気づきについて紹介させて頂きたいと思えます。その一つは昨年末の特別街頭募金を終えて気づかされたことで、いま一つは1月の久山療育園の成人式のメッセージを考えていく中で気づかされたこと、この二つです。

▼街頭募金におけるコロナー友の会と親の会、久山療育園との協働について▲

昨年の12月、恒例の年末特別街頭募金をコロナー友の会と久山療育園職員とその家族及び入所者の保護者の協働によって無事終えることが出来感謝でした。

街頭募金は「友の会の行動を起こそう」という思いから、1972年1月に福岡地区に在る13のバプテスト教会の青年たちの手によって始まりました。そして、1973年9月にコロナー友の会の活動が、①例会活動、②公報(機関紙)活動、③ボランティア活動、④街頭募金活動、⑤総務・会計の五つの部門に組織化され、各部門の活動と平行して活発化し、これまで42年間継続されてきました。

1年間の実施回数が平均15回(月例の街頭募金11回と年末の特別街頭募金7回、計18回のうち、雨による中止を3回として)

として42年間で630回、それに加えて久山療育園の開設前後5年間で北九州、下関、大分での実施回数150回を加えると、ほぼ800回に近い回数となります。コロナー友の会のメンバーの他、ワークキャンプに参加した小中学生や久山療育園の職員とその家族、入所者の保護者等々参加者の幅が広がり、今日の推進の体制が出来上がりました。

特筆すべきは、街頭募金において支援組織コロナー友の会が中心となり、利用者の保護者と当該施設久山療育園とが連携し、一体的な協働体制が出来ているということであり、更にこの三者の連携の中、42年間、毎月…:街頭(福岡市天神)に出て募金活動が継続されていることは稀有なことだということとです。

天神での街頭募金は、久山療育園の働きと折々の課題をアッピールするチラシを配布しつつ、スピーカーで街ゆく人たちに募金を呼びかけるものですが、重要なことは単なる募金活動ではなく、重症児福祉の実現すべきさまざまな課題の社会化を目ざす最前線の啓蒙的な働きの場となっていることと、いま一つ、街頭募金が支援者と当該施設と利用者の保護者の三者の一体的な連携体制を作り出す契機となっているということ

とです。街頭募金で生まれた三者の一体的な連携体制を大切にしていゆき、更にこれをテコにして今後もっと別の働き、例えば、初めから1400万円前後の赤字が予想されている「重症者ホームひさまま」の運営支援を強化していく新しい働きに拓けていくことは出来ないか、私はこの度の街頭募金を三者の協働によって成し得たことを通して、新しい次の活動への展開の可能性に気づかされ、気持ちを高揚させた次第です。

聖書(伝道の手 11章1節)に「あなたのパンを水の上に投げよ。多くの日の後、あなたはそれを得るからである」ということばがあります。これはものごとを長いスパンで考えるということ、難しい事業も「多くの日の後」主にあって必ず実現するということを教えていることばです。

久山療育園は重症児者が地域の中心に位置づけられて生きる福祉社会(きょうどうたい)づくりの拠点として設立されました。重症児者福祉のこの大きな夢を現実のものとしてゆくため、街頭募金から生まれた前述の三者の一体的な協働体制を一層強化してゆくことが大切だと思いました。

▼神の祝福の恵みとしての二十歳(はたち)のいのち▲

久山療育園の理事長として重症児者の方々にメッセージを語る機会があります。教会の牧師時代と違つて苦労することはメッセージ作りが難しいということと、普通に話したのではメッセージが届きません。なるべく易しいことば

で、シンプルに…、ということを中心掛けつつ、しかし、大切なことはその折々のテーマに即し、重症児者に叶った神の祝福のことばを語らなければならぬということとです。今年もこの1月、入所・通所合わせて2回成人式があり、メッセージを取り次ぎました。成人式のお祝いのメッセージの切り口とその内容をどうするか祈つて考えてゆく中、成長した二十歳(はたち)のいのちを神の祝福の恵みとして祝うこと、そのことが大切だと導かれました。聖書の箴言(16章31節)には「しらがは栄の冠である」と記されていますが、そこでは「しらが」は長寿を意味し、人間が長くいのちを重ねることとは神の祝福によるということが語られています。

重い障害を負つて重症児者が生きること、1日1日、1年1年、善く生きてその祝されたいのちを積み重ねて二十歳(はたち)の成人式を迎えられるということは神の恵みとしか言えないからです。何年前のある新聞の欄に、子どもの成人式に寄せてある障害児の母親の言葉が載っていました。ことばは「子どもの成人式はいつくしみ育てた親に与えられる神様の勲章だ…」と記されていました。重症児が育つてゆくためには施設での医師や看護師をはじめ職員やボランティアなどたくさんの方の支えが必要です。在宅の場合は更に手厚い両親の愛の手が必要で、生死をさまよう厳しい状況に幾度も遭遇し、その度に両親は寝ずの番をして見守り、日常も子どもが中心とされ家族からの愛を一身に

受けて育み育てられて成人の日を迎えることが出来るわけです。重い障害を抱えての厳しい日々の中、20年そのいのちが守られ育まれてきたことに対し、特別に感謝を表す必要があると思えます。

今年、お祝いを受けたのは男女1名ずつでした。重い障害を抱えて生きる中で、愛されてみんなと共に生きる存在として、人の生き方、いのちのいと名みの豊かさというのをいろいろな形で周りの人たちに気づかせ、成長の途上にあるお2人でした。

障害児の父と言われた糸賀一雄先生が「この子らに世の光をではなく、この子らを世の光として」ということばを残されましたが、それは成人式を迎えられたお2人のように、周りの人たちに支えられて生きる中で逆に周りの人たちにいのちの豊かさについての気づきを与えて生きておられる重症児者の生きざまそのもの、これを語っておられるのだということを知らされた成人式でした。そしてそのことを通して、ほんの小さなきっかけで様態が急変し、いのちにかかわる事態を引き起こす恐れのある重症児の医療・療育は、世の光として在る重症児者のいのちを守るこの上なき重い責任のかけられた働きであることを再認識した次第です。

「見えるものではなく、見えぬものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである」(コリント人への第二の手紙 4章18節)

「平成26年度西日本重症児施設協議会から」

センター長 宮崎 信義

はじめに

第35回西日本重症児施設協議会は、2014年11月20～21日に長崎市（ルークプラザホテル）にて開催され、58施設、198名が参加致しました。今回は厚生労働省による行政説明はなく、協議会による「生きる」ことが光になる」(びわこ学園からの発信「糸賀一雄生誕百年」)、「全国重症心身障害児(者)を守る会結成50年」に集約され、高谷清氏の基調講演「重い障害のある人の生きるよろこびは」と大会主題に関連したシンポジウムと感染症及び骨折の調査報告がなされました。私は「重症児者の生命の尊厳」「児者一貫とそれを支える医療・療育の在り方」「施設と保護者の連携」という視点から、以下のようにとまどめてみました。

基調講演から

高谷清氏(びわこ学園医師、前第一びわこ学園長)による基調講演「重い障害のある人の生きるよろこびは」は、びわこ学園からの発信「生きる」が光になる」に始まり、重症心身障害児(者)の存在が医療・療育・福祉を向上させ、人の

湖療育医療センターと保護者会との交わりから、「両者が車の両輪となつて、同じ方向を向き手をつないでいきたい」と述べられました。

特別講演「重症心身障害児(者)について思うこと」

「重度障害児スコア(鈴木試案)」等で重症心身障害児(者)や施設に重要な貢献をして来られた鈴木康之氏(鶴風会前統括施設長)から、「重症心身障害児(者)について思うこと」(児者一貫から学んで)と題する特別講演がなされました。鈴木先生ご自身が重い疾病のための不自由な状態で淡々と語られました。参加者として深い感銘を受けました。

最初に側島久典氏(埼玉医科大学新生児科教授)による「子どもの命の輝きを家族と感じあえる周産期医療を目指して」が発題され、埼玉大新生児集中治療室(NICU)の紹介、周産期精神保健、NICU長期入院と退院支援についての提言がありました。

続いて、高木正三氏(全国重症心身障害児(者)を守る会九州・沖縄ブロック長)による「施設と保護者会は車の両輪」についての講演があり、ご自身のお子様のこと、江津

後も継続利用が可能な施設であること。④重症心身障害児療育の特性、⑤重症心身障害児(者)の医療課題、特に幼小児期と成年期における障害特性・合併症・治療やケアの内容。⑥重症心身障害児(者)の呼

インフルエンザとその他の感染症調査報告

例年のようにくまもと芦北療育医療センター松葉佐正氏によってアンケート報告がなされました。調査期間は平成25年9月～平成26年8月、回答は65施設中62施設(95.4%)でした。インフルエンザについての要点は、①ワクチン接種：入所者は接種率98.4%、最多接種時期11月48回答。職員

参加から統合へ、児者分離の流れ、医療面でのCareとCureの区別・急性期医療・慢性期医療、医療福祉予算による制約等、日本では家庭療育に始まり入所利用へと向かうもので、一般的な脱施設とは異なること、児者分離は家庭への愛着を分断し重症児者ケアは生活を豊かにする医療であること。③重症心身障害児施設の骨格：終生を見守れる入所施設、病院であり福祉施設であり、児童施設であり、成人

施設内骨折アンケート報告

東部島根医療福祉センター院長伊達伸也氏によってアンケート報告(調査期間は平成24年10月1日～平成25年9月30日)がなされました。回答は調査65施設全施設からなされました。対象人数の総計は6333人で、骨折件数は151件(148名)で2.38%でした。内容は、I群(寝たきり群)56人(37%)、II群(座位可能群)36人(24%)、III群(移動可能群)59人(39%)で、年齢分布は50歳代が最多、次は60歳代・40歳代でした。

おわりに

重症心身障害児施設が児者の一体的運用施設と成人のみ(療養介護事業所)とに分かれる中で、重症心身障害児(者)を守る会の願いでもある「児者一貫」、医療を必要とする入所者の生活支援、重症児者及びその保護者にとってのセーフティネットと機能、在宅支援としての役割(短期入所、通園事業、外来診療、地域療育等支援事業などの支援を総合的に提供)を堅持していくことの大切さを再認識した機会でもありました。

次期開催日程は、2015年11月19～20日、開催地は松山市(マルパルク松山)で、担当施設は南愛媛療育センターが予定されています。

「久山療育園の2015年度事業計画」

センター長 宮崎 信義

はじめに

今年度もあとわずかになり、創立40周年となる2015年度を迎えようとしています。久山療育園重症児者医療療育センター（以下「久山療育園」「園」と略）として特筆すべきことは、「在宅支援センター」（「重症者ホームひさやま」及び「在宅支援棟」）が7月に開所されることです。日本の医療福祉制度の変動期にあつて、また久山療育園の働きの転換点にあつて2015年度の事業計画を立案すると共に、温故知新の視点から開園以来38年間の歴史を辿り中長期的な展望を概観したいと思います。

「度」へと現実化され、これまで「児童福祉法」で大切にされてきた「重症心身障害児（者）」という概念や「療育的視点」が危ぶまれていきます。名称としては失われた「重症心身障害児施設」ではありますが、「重症心身障害児施設」という呼称（通称）を守っていきたく思っています。しかし法制度は施行されてしまふと、成人だけの施設（療養介護事業所）や一般病院での「障害者施設等入院基本料」算定病床の利用が現実化し、重症心身障害児という定義、すなわち「重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複（児童福祉法第7条第2項）」し、発達期に発症し、医療的ケアの必要な児者」という概念も曖昧化される恐れがあります。今までも少数者であった「重症心身障害児（者）」の命と暮らしが「世界に冠たる重症心身障害児制度」によって守られてきましたが、これからは「重症児者人所施設はいのちを守る最後の砦」（全国重症心身障害児（者）を守る会）としての役割を果たしていく使命があるのでないでしょうか。久山療育園の事業計画も、以上の視点を大切に立案して行きたいと思っています。

年間主題（施設の方向性）
久山療育園の年間主題は、「重症児者と共にある在宅支援センター」、開園祭テーマは「在宅支援センター事業の推進」と致しました。児童福祉法（医療型児童入所施設・児童発達支援事業）と「障害者総合支援法」（療養介護事業所・生活介護事業通所）と児者分離になりましたが、センターの名称が示しますように、「重症心身障害児（者）」及び「児者一貫」の視点に立った医療療育を守って行きたいと思っています。

例えば社会福祉基礎構造改革（1997年）に始まる経済的視点が重視された施策が、「介護保険法」施行（2000年度）から「障害者自立支援法」施行（2006年

療）「安全・安楽・安心」を堅持し、重症心身障害看護は、病室、宿泊室、園内外での過ごし方を支える看護、「看護の専門性の標準化」。重症心身障害福祉は、絆の尊重、家族やボランティア・職員との面会・交流を支える。重症心身障害制度の骨子は重症児者の生命の尊厳と権利擁護。

②園内の事業の分担協力を円滑に各部署（縦軸・ライン）と委員会（横軸・スタッフ）・プロジェクトの連携を軸として。在宅支援センターの建設と運営。「重症者ホームひさやま」の立ち上げと支援。職員確保と育成。介護職員の喀痰吸引等の研修など。研修活動及び研究活動を日常のスキル向上に。

③「重症心身障害施設」としての役割。「重症心身障害」に特化した医療福祉施設としての役割を堅持・児者分離や療育の消失に抗して。地域に根差した「いのちを守る最後の砦」（全国守る会の主張）としての入所機能。「在宅支援三本柱」（通所・短期入所・訪問）の確立・地域の重症心身障害児（者）支援。

④地域や行政との連携・障害者福祉課や医療指導課・保健福祉事務所。

⑤保護者会及びコニー友の会との協働・在宅支援センターの運営と入所事業及び在宅支援プロジェクトへの参画を求める。コニー友の会運動を共に担う。

⑥重症心身障害福祉協会との協働・専門看護師育成・第2期及び第3期にむけて。九州特に福岡県内の他施設との連携。

これまでの久山療育園の主な歩みを、①事業の歴史、②施設機構改革の経緯に要素化してまとめました。

①事業の歴史
1976年9月に児童福祉施設設立認可（ベッド数50床、内科・小児科・整形外科）、入園開始（9月27日5名）。1990年1月に通園モデル事業開始・久山療育園も参加（全国で5ヶ所）。2008年4月名称変更・「久山療育園重症児者医療療育センター」へ、そして全病棟が「障害者施設等入院基本料算定」病棟へ。2009年度、2013年度中期5ヵ年計画「在宅支援プロジェクト」策定。2012年度に新体系へ移行（入所）「障害児入所施設」（児童）・「療養介護事業所」（成人）（通所）「児童発達支援事業（就学前）」「放課後等デイサービス（学童）」、「生活介護事業」（成人）。2012年度には同時に7床増床し94床（医療法）へ、うち88床は契約病床+6床の短期入所病床（併設型）。そして2015年度には創立40周年記念事業としての「在宅支援センター」

「在宅支援棟」「重症者ホームひさやま」（グループホーム）の開設。

②施設機構改革の経緯
1997年度には地域療育部創設（5部制）、病棟傾斜配置実施・重症児者一人一人に合致した医療福祉サービス。在宅支援の要としての通園事業の運営。2006年10月には、「療育指導室」（養育部を改組）が発足し、生活支援員（指導員・保育士・介護福祉士・療育員等）の役割の再確認と障害福祉サービスの向上。部署運営の規模適

正化。「療育」の視点の再認識。個別支援計画の充実。2015年度には前述の創立40周年記念事業・「在宅支援センター」事業開始。

おわりに
久山療育園は1976年に創立され、2015年で満40年を迎えます。これまでの歩みを検証し、さらなる創立理念の実現の目的で以下の創立40周年記念事業を計画しています。その始めとして、2015年度「在宅支援センター」が今年7月に開所され、次に創立40周年記念誌の発行ですが、2015年度に編集し第40回開園祭までに発行したいと考えています。更に創立に寄与された方々、支援してこられた方々に集まって頂き、2016年9月の第40回開園祭の前日に設定して、創立40周年記念式典及び第4回全国支援者会議を開催したいと思います。読者の皆様からも新たな提言を頂けたら幸いです。

職員の異動

【嘱託契約終了】
羽野美濃（看護師） 12 / 31付

【採用】
本田朋子（食事介助員） 1 / 7付
國崎利枝子（食事介助員） 1 / 13付

花田京子（看護師） 1 / 15付
株木孝子（食事介助員） 1 / 26付

ご協力ありがとうございました

(2014年10月1日〜12月31日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

林俊明、福岡聖書キリスト教会、豊前キリスト教会、青森バプテ...

部教会婦人会、東福岡幼稚園、三上渡・有代、大分キリスト教会、後藤敏雄、福岡ベテル教会、恵星幼稚園、(学)西南学院、舞鶴幼稚園、大敷善次郎、嬉野キリスト教会、加藤節子、日本バプテ...

性連合、若松バプテ、西南幼稚園、西南幼稚園母の会、日本基督教団福岡中部教会婦人会、木戸美沙、西南学院中学校・高等学校、高松太田キリスト教会、汀幼稚園、防府バプテ...

祭来園者、牟田米子、井手伸昌、宗廣誠、新宮町心身障害者親の会、富野バプテ...

雄、又野洋子、船津丸泰、嘉久明子、古川新、百田由美子、古池大作、自動販売機売上献金、久山療育園献金箱、吉村敏彦、梅崎正広、山崎玉、渡辺浩行、横山力、伴敦子、安藤榮雄、藤田英彦、馬原哲治、中島乃婦子、下松京子、米工房・井上、井上吉彦、金子純雄、鎌倉ツヤ子、(株)白菱リネンサービ...

施設献金

金丸尚美、瓜生美知子、坂口道子、西村久仁子、村山均、筑紫野天拝坂キリスト教会、澤田雅子、佐竹サツキ、山本三佳、平京子、新藤賢恵、佐和子、澤田久夫、山口吉昭、岡本好枝、矢津眞澄、草場貴子、田中三千男、由美、東倉忠勝、古賀美紀、森永清治、矢山和平、(学)東京第一バプテ...

【施設会計】

以上6, 102, 318円) 宮崎隆一 (以上6, 102, 318円) 山田雄次、古賀和男、第38回開園...

指定献金

福元孝三郎 (以上500, 000円) 建築献金 (以上500, 000円) 山田雄次、古賀和男、第38回開園...

献品

横溝玲子さん伯母(タオル)、嘉久明子(梨、りんご、柿、ジュース)、高瀬孝介(お米、衣装ケース)、中山リサイクル産業(タオル)、高倉博子(切手、ポケットティッシュ入れ)、羽田有子(はがき)、梅崎季美子(カレンダール)、安部田史子(手作りブローチ)、サンエイワーク(クリスマススリール)、鈴木伸(ポインセチア、りんご)、高瀬美代子(パジャマ、タオル)、高瀬美代子(タオル、半タオル)、福岡丸本(タオル)、山崎製パン従業員組合福岡支部(ケーキ)、宗廣美代子(手作りマフラー)、西日本新聞民生事業団(ケーキ)、島津友子(もち)、福岡友の会(石鹸、雑巾、タオル、食器用エプロン、清拭布)、梅田順子(手作り毛糸ボール)、ロジテム九州(ケーキ)、くばらコーポレーション(ケーキ)、西日本高速道路(九州支社(カレンダール)) (以上9, 874円) コロニー友の会献金 9ヶ月街頭募金、久山デザイン(以上558, 787円) コロニー友の会扱ひ献金 7月1日〜12月31日 山口正夫、常盤台バプテ...

支援者からの声 第十二回

「運動体としての
久山療育園」福岡城西キリスト教会協力牧師
前 西南学院理事長・院長

寺園 喜基



わたしは「久山療育園」については、開設前の川野直人先生を中心とする諸先生がたの働きから、また開設後は教会がおなじである山田雄次先生が初代の「友の会」事務局長をしておられたので特に山田先生をとおして、身近に感じており、今日にまでいたっています。

初期のころボランティアとして食事の介助をさせていただいたことがありました。口にもっていきそこねたり、こぼしたりしてゆっくりゆっくりと食べるのを介助しながら、大変さを実感する

とともに、しかしまた生きること、食べることの原点のようなものにも触れることができたような感じがして、帰るときには何だかすがすがしい気持ちがありました。介助に行ったのに、わたしの方が元気をもらったようなぐあいなのです。このような気持ちが、わたしの久山療育園とのかかわりの根っこには今も残り続けています。

久山療育園は設立発起人総会から四〇年たちました。今では同じような全国の施設の先行的モデルとなり、立派な組織体となりました。しかしこのような時こそ久山療育園の「運動体」という側面を覚えておきたいです。ここで、「組織体か運動体か」という「あれか・これか」の二者択一はふさわしい捉えかたではないと思えます。運動体として生きているからこそ、組織体は在りつづけるのだと思えます。

ここで例として、わたしが関わった学校とくにキリスト学校という組織体を考えてみましょう。日本のキリスト学校はほとんど明治大正期に創られ、百年前後の歴史をもっています。そのほとんどが外国人宣教師や日本人キリスト者の熱心な祈りと献金によって創立されました。そして今や立派な学校になりました。運動が実って組織体ができあがったのです。ところが立派な学校になっても、運動体の性格を忘れるなら、

組織防衛的になり、閉鎖的になる傾向がでてきます。教職員は悪い意味でいわゆるお役人的になりまます。学校は教会のみでなく社会にも耳を貸さず、それらに「介入」されない「象牙の塔」であろうとします。その結果、社会は早いスピードで動いているのに、学校は時代遅れになる、ということがしばしば起こります。

これはキリスト学校が運動体であるという性格を忘れることによってしばしば起こる危険です。キリスト学校が運動体の性格をもつということは、学校は教職員と学生・生徒から成り立っているのではないということに自覚することです。学校は「上」と「横」に開かれているということ、具体的に開かれている学校に祈りのグループがあるか(原理的に神に開かれているか)、まわりの諸教会に開かれ、密接な関係をもっているか、同窓会や企業に耳をにかけているか、ということだと思えます。このような関係は時にはうるさく、面倒なことがあります。しかし、これらを巻き込んで渦巻きのように進むことによって、学校は正常に運営されると思えます。

久山療育園がボランティア、友の会、支援者や支援企業、学校などと「横」につながり、また「上」へも開けて、「久山運動」と称されるような運動体になりつつあることを喜ばしく思います。



藤田 英彦

福音の窓

そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

子どもたちであることの事実を訴えていたジャーナリストで、教団・田園調布教会に通う方で、悲痛な中でさいごまで、しっかりとした訴えをしておられた実母も、教会は違うがクリスチャンと云うことです。

それにしても、後藤さんたちが捕えられ、脅迫文が届いた後に中東に出掛け、「イスラム国」を取り巻く国にわざわざ出かけて多額の援助金を送り「テロには屈しない」として対立を激化している政権の在り方は納得できません。また、これを機に【戦争の出来る国】へ空気を醸成し、後藤さんの願いと反対に、覇権主義に基づく、憎しみの負の連鎖による戦争の拡大が心配です。

どんなに正義を唱える戦争であっても、人を殺し合う戦争は愚かであり、しかも現実の被害者は、常に女・子どもたちや、障害者です。

イエスは、集まって来た子どもたちを抱き上げ、手を置いて祝福しておられます。

その写真集、賞を受けた『ダイヤモンドより平和が欲しい』を携えて玉川女学院などミッシェル・ジョンソンなど互いに正義を唱える戦争の愚かさや現実の被害者は、障害者や女・

ハプテストコロニー友の会「かべしんぶん」

2014年度年末街頭募金報告

2014年の年末は寒波の到来で厳しい街頭募金となりました。最初の二回(13日(土)と20日(土))は寒さのため地上の歩行者は少なく、手の打ちようがありませんでした。中盤から寒波が緩み、前半の不振を補う形になりました。21日は教会はクリスマス礼拝(祝念)の日で参加が出来ず、久山療育園の職員及びそのご家族と利用者の家族の皆さんが担って下さいました。23日(水)は休日で、教会から久山療育園と利用者家族の皆さんが頑張って下さり、最高の募金日となりました。楽器(ヴァイオリン)で讚美歌を演奏して下さい、子どもにサンタクロースの服を着せて目立下服装で家族揃ってご参加下さったケースなど、工夫を凝らして参加して下さいました。園にお姿を拝して、久山療育園に寄せて下さっている皆さんの熱い心に励まされま

した。全体では42教会と久山療育園と利用者のご家族合わせて155名、献金は355000円でした。感謝申し上げます。尚、七日間の募金報告は別表の通りです。

コロニー友の会運営委員 山田 雄次

2014年コロニー友の会年末特別街頭募金報告

Table with 6 columns: 回数, 実施日, 参加教会・グループ, 参加人数, 募金額, 備考. It lists 7 events and a total of 155 participants and 355,000 yen raised.

街頭募金に参加して

「募金ありがとうございませす。」これは、募金をしてくれた人へのお礼を言っている言葉です。

私は、今まで街頭募金に七回参加しました。初めて参加したときは夏だったのですが心の中では「暑いし、面倒くさいし、行きたくないなあ。」と思いましたが、募金をしてもらっているとすこくうれしくて、チラシもなくなっていくと心も「ワクワク」して「ドキドキ」したり、とても楽しいなあと思いつた。

冬の街頭募金では、外が寒いから道行く人はポケットの中に手を入れていて、チラシをなかなかもらってくれませんでした。でも、小学生と私より年下の子供たちが全身を使って大きな声を出して、言葉をはつきり言うことを目標にしてがんばりました。そんな私たちの思いが届いて、立ち止まって「寒いのがよくがんばっているね。」と、はげましの言葉を言いました。また、妹たちと同じく小さい子供がお母さんと呼びとめて「お金人

りたい。」と言って募金してくる人もいました。このチラシをもらおうと、将来何かの役に立つかもしれないし、この世の中に重症心身障害児者という重い障がいのある人がいるということ、それから募金がどのようなことに使われているかなど、詳しい情報がのっているから、どうしてもこのチラシを見てほしいので、一枚でも多く配っています。

これから、もっと多くの人に久山療育園のことを知ってもらいたいので、夏も冬も他の季節も街頭募金に積極的に参加したいと思つています。その際には学校の友達やいとこも誘って行きたいと思つています。

まだ参加したことのない人はぜひ一緒に大きな声を出して、チラシをいっぱい配りましょう。

（小学六年 横山 楓）



「がんばりました！」

車いすを献品していただきました!

福岡県中古車自動車販売組合・JU福岡ディーラー部会様より、電動車椅子2台を贈呈していただきました。

こちらの部会では、毎年各部会で集められた献金で、施設などに車椅子を贈呈しておられるとの事です。今年度は、当園に贈呈したいとお話があり、当園を見学していただきました。その際に、JU福岡の理事をはじめ皆様より「利用者が使える、より良いものを贈りたい」とのお話をいただき、電動車椅子を含めた3台をいただくことになりました。その贈呈式を、1月19日、福岡県中古自動車販売組合・部会長、JU福岡・理事をはじめ関係者と当園理事長・センター長など当園関係者と共に、地域交流ホールにて行いました。

電動車椅子は、テーブルに置いたレバーを少しの力で動かすだけで、自分の好きな場所へ行くことが出来るものです。リハビリスタッフとの訓練時に使用しており、自分で車椅子を操作している利用者は、いつも以上に笑顔で、ちょっと得意気に見えます。車椅子も座面にクッション性があり、入所者が散歩に行く際に使用しています。利用者の生活の質を向上させることが出来る素晴らしい物をいただき、福岡県中古車自動車販売組合・JU福岡ディーラー部会の皆様には、心より感謝申し上げます。(療育指導課長 山田いずみ)



「ありがとうございました！」

めぐみ棟の活動!!

追悼 深見亜弥さん

2014年12月5日、深見亜弥さんが永眠されました。

久山療育園に就職して5年になります
が、そのうちの3年間、亜弥さんを受け
持たせていただきました。学校や定期受
診など付き添って外出することも多く、
いろいろな思い出があります。

初めて学校の運動会に参加した時は、
「よーいドン」のピストルや体育館中に
響きわたる音楽と大きな音にびっくりし
たけど、たくさんのお友達と一緒に過ご
すことができて楽しかったですね。

友愛セールでは、冷たい風が吹いて
ちよつと寒かったけど、「いらっしやい
ませ〜」って看板娘として頑張りました
よね。

福大の定期受診にもよく一緒に行きま
した。

どこへ行く時も、いつもおじいちゃん
とおばあちゃんがついてきてくれました
よね。アメリカから家族みんなが帰って
きてからは、お父さんやお母さん、妹や
弟がついてきてくれるから、にぎやかで
楽しかったですね。

家族室で、お父さん、お母さん、妹や
弟と一緒に泊りすることも楽しみで
したよね。まだ赤ちゃんだった妹にお顔
をバシバシ叩かれて痛かったけど・・・
(笑)。

小学生から中学生になって、どんど
ん背も伸びていき、素敵な女性になった
亜弥さん。思い出せばまだまだたくさん
あって書ききれないけれど、あなたと共
に生きた日々は「たからもの」です。苦

しい時、つらい時にたくさん元気をもら
い、癒されました。
亜弥さん、ありがとうございます。
亜弥さんと出逢えたことに心から感謝
しています。

(めぐみ棟看護師 大坪)



「みんなでハイポーズ！」



アートムジカ

2014年10月24日、めぐみ棟
DAYSルームにて、アートムジカ
が行われました。アートムジカつ
て何だろう？とドキドキ、わくわ
く。アートムジカが行われるのを
楽しみに待っていました。始まる
と、すぐに、アートムジカの世界
に惹き込まれていました。アートの
ムジカについて、恥ずかしながら
詳しく知らなかったのですが、音
楽と芸術を融合させるという事
はこんなに素晴らしいものなんだ
と、感激しました。声や表情、ピ
アノでの表現力がとても凄く、ま
るで、物語の世界に入り込んだか
のように感じました。

また、絵を描く道具は筆だけで
はないことをアートムジカに参加
させて頂いて知りました。はさみ
や自分の指などの身近な物を使っ
て素晴らしいライオンやゾウ等の
絵が出来上がっていました。手を
使って描くというより、身体全体
で絵を描き、表現されているよう
に見えました。最後には、みんな
と一緒に歌い、とても楽しい時間
を過ごさせて頂きました。是非、
また参加させて頂きたいです。あ
りがとうございました。

(めぐみ棟保育士 葛島)



「さあ〜誰がモデルかな??」



「ハサミから・・・ライオンに大変身!!!」

ひかり棟の活動!!

LCU活動

毎月1回、ひかり棟LCU(ライフ・ケア・ユニット=生活重点棟)にてLCUリハ活動を行っています。リハビリ課の作業療法士とLCU担当の保育士がリーダーとなり企画運営しています。

昨年11月までLCUで過ごしていたメンバーは、歩行したり、手を器用に動かす事が出来る方が多くいました。また周りの利用者者とコミュニケーションを取りながら活動出来る方が多くいたので、季節に合った製作活動やチーム対抗でゲーム等を行いました。製作では、ロールを持って前後に動かしたり、息を吐いて花紙を飛ばすなど、各々の持っている力を発揮して作品を完成させました。

また12月からは、LCUで過ごすメンバーが何名かわり、1人での時間を楽しむ方が増えました。そこで、全員で一緒にという活動ではなく、個人個人で遊ぶことが出来る感覚遊びを行っています。トランポリン・スクーターボード・ワンロール・ジョーバ等を使用して、揺れ・跳ねの感覚や目で見る楽しみ等を味わえるようにしています。

月に一度皆で出来る活動の時間なので、活動中は利用者の皆さんとてもよく笑っています。スタッフも一緒になって楽しんでいきます。

これからも利用者の皆さんが楽しめる活動の時間を作っていきます。

(ひかり棟保育士 櫻井)



「びよんびよん楽しいな♪」



「何を書いているのでしょうか？」

達人シリーズ 第二弾 「讃美歌の達人」

讃美歌の達人なんて、おかしいかもしれない。しかし、私はあえてこう紹介したい。なぜなら、彼女「因道子さん」は、讃美歌をこよなく愛し、心をこめて歌う事に関しては私の知る限り右に出る者はいないからである。

彼女は毎日、讃美歌を聴きながら眠りについている。それは、在宅されていた頃から続いている日課である。静かに響く讃美歌に包まれて、お祈りをしているのだ。私はその日課を知った時、「なんて素敵なお祈りの日課か知ら・・。」とクリスチャンでもないのにそう思った。

彼女の歌声を聴けるのは、その時ではない。毎週火曜日午後5時10分からである。

「火曜集会」という前号でもご紹介した職員を中心とした集いである。彼女はそこに毎週通い、その歌声を披露しているのだ。彼女の歌は、尊い。そして優美である。はかなく、時に力強く聞こえるその声は、他の者を圧倒する。カラオケで百恵ちゃんを歌う時と何が違うのだろうか考えると、やはりこれしかないと思った。「祈りが込められているから・・」。彼女が日々思う様々な想いが込められた歌声だからこんなにも心に響くのである。ぜひ、皆さんにも聴いて頂きたいと思う。

「ひかり棟 因道子さん、これからも素敵なお祈りの日を過ごしながら、歌声を響かせて下さい」

(ファン代表 ひかり棟療育主任 陣内)



「すべてに感謝！」



「因 道子さん」

「二十歳を迎えて・・・」

厳肅に、そして和やかにひかり棟での成人式が行なわれ、たくさんの方々の祝福を受けて、喜びと感謝でいっぱいになりました。

二十年前に思いをたどれば、(将来はサッカーが野球での活躍を期待されていた)アンパンマンが大好きな元気な子でした。

三歳の誕生日を迎えてすぐの朝のことでした。突然の吠えるような叫び声と共にひきつけていました。脳炎でした。絶え間なくエビ反りに激しく痙攣しているのに、ただ手を握って足をさすってやることしかできず、「生きて！」「がんばれ！」と心の中で叫び続けました。腫れていた脳は萎縮していると言われました。全身の脱力で抱いても腕から抜け落ちていき、目は見開いていましたが太陽の光にも反応しませんでした。

懸命の治療とリハビリなどで、どうにか首が座った状態になり、四ヶ月の入院生活が終わりました。家には帰ってききましたが、ミルク注入用のマーゲンチューブの取り換えも練習通りにはいかず、途中で病院に連れていく事もしばしば・・・不安で、心配で、目を離すのが怖くてほとんどうちの中で過ごしました。松山市の保健婦さんの助言でひまわり園という通園施設に行けるようになり、温水プールでの訓練や遠足での乗馬など有意義に過ごせました。ご飯を食べたがっている事を発見したのもこの頃でした。マーゲンチューブが取れて、愛媛の養護学校に入学しましたが、七月に古賀市へ転居となり、福岡養護学校(当時)へ転校しました。とにかく今日一日を、と日々踏ん張ってききましたが、

高等部二年の夏、都合により中退せざるを得ない事態になりました。この中退の選択が良い方向へ転がったようで、平成二十四年五月に久山療育園への入所が叶いました。おかげ様で園の皆様方の温かい見守りの中、安心して穏やかに過ごしています。再入学した訪問教育部も今春には卒業です。たくさんのご支援ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

平成二十七年一月

山崎眞澄
(山崎和樹さん おばあさま)



「共に前へ」

子どもと思っていたら、気付けばもう成人式を迎える年になっていることに驚いています。

我が家の二番目の子として生まれてきた結乃は、健康面に不安のあった私から生まれたとは思えないほど、健康で元気な子どもでした。思い出すのはいつも笑顔だったこと。気持ちの優しい子で、保育園で泣いている小さな子がいたら手を繋いで慰めたり、また歌ったり踊ったりするのが大好きで、お遊戯会ではセンターでノリノリに踊っていた姿は、今でも目に浮かびます。只々明るい未来だけを想像していました。まさか結乃の身に、思いも寄らない出来事が起ころうとは、露ほども思いません。

それでもそれは四歳半の時に起こりました。何もかもがこれまでとは変わってしまい、夢ではないかと何度思ったことかわかりません。今思い返すと、当時は悲しむ余裕も無いくらい必死だったと思います。ただ現実を受け入れて、前へ進むのみでした。

小学、中学、高等学校の十二年間は訪問教育を受けていて、毎日学校へ行くことはできませんでしたが、先生とのマンツーマンでの授業は結乃のペースに合っていてよかったです。毎年の発案で始まったこと、小学校の担任の先生の発案で始まったこと、きっかけで、訪問教育だったからこそできた事だと思えます。

すべてが手探り状態で、私自身戸惑いも多くありましたが、ここまで来ることが出来たのも、たくさんの方々のお陰です。

と感謝しています。そして何より一度は失いかけた命で、それも重度の障害を残した体で結乃は、ここまで良く頑張って生きてきてくれたと思います。苦しくて辛い時があっても笑顔を見せてくれる結乃は素晴らしいと思います。

今年で二十歳になり、元気に成人式を迎えることができ、嬉しい気持ちです。二十歳という大きな節目にお祝いをして頂けることに感謝して、これからも前を向いて、楽しく結乃らしい人生がおくれることを願っています。

石堂容子
(石堂結乃さん お母さま)



「結乃さんおめでとうございます」

「二十歳の素敵な笑顔」

クリスマス会

12月19日、通所利用者43名とそのご家族が参加し、クリスマス会が行われました。

いつもの雰囲気とは違って、大きな部屋にたくさんの人。普段は会わない利用者さん同士も久しぶりに顔を会わせて、自然と笑みがこぼれたり、見慣れない顔にドキドキしたりとにぎやかな雰囲気の中、始まりました。第一部クリスマス礼拝では、キャンドルサービス。暗闇の中きらきら光るペンライトを見つめ、理事長先生のお祈りに耳をすませます。

第2部祝会ではゲスト「劇団アフリカ」さ



「劇団久山さん」



「劇団アフリカさん」



「今年のクリスマスも大盛り上がり！」

んによるクリスマスコンサート。アフリカの楽器・太鼓の紹介もあり、動物の皮やひょうたんを使った楽器の響きを身体中で感じて、リズムに乗って体を揺らして迫力のある演奏とダンスを楽しみました。

（通所看護師 森山）

新春 通所餅つき大会

1月6日、今年最初の通所行事、餅つき大会が行われました。

久しぶりに会うお友達やお母さん達は皆元気な笑顔。新年の挨拶があちこちで交わされ、通所棟にまたいつもの活気が戻ってきました。今年は18名のお友達とご家族、ボランティアの方々に参加してくださり園長先生の挨拶の後、餅つきが賑やかにスタートしました。「ヨイショ！ヨイショ！」の威勢のいい掛け声に合わせてお餅をついていくお友達とお母さん。嬉しくてニコニコ顔の人、大丈夫かなあ…とちょっと不安そうな人、ぐっすり眠っていたのに杵を持つとパチッと目が覚めた人等々…皆さんいろんな表情を見せてくれましたね。幼児クラス「宇宙」の小さなお友達も頑張って杵を振りおろし、可愛い笑顔がたくさんあふれていました。あたたかいお餅を手で触ったり顔に当ててみたり、ふわふわのお餅の感触も楽しむ事が出来ました。

午後からは、お餅の重量当て&ビンゴゲーム大会！皆でついたお餅を、お母さん達が1人ずつかかえてみて、その重さを予想していききました。そして結果は…なんと、正解に一番近い答えを言ったお母さん達がお二人！会場からはたくさん拍手が送られました。ビンゴゲームでは、数字が読み上げられるたびに「やったー！」「あくあー！」など喜びや落胆の声があちこちで聞こえ、ゲームは大いに盛り上がり、全員ビンゴ！で皆さん景品を手にすることが出来ました。笑い声に包まれ、あつという間に終わった餅つき大会…今

年も皆、健康で笑っていられる一年でありま
すように。
（通所介護福祉士 安河内）



「お母さんと一緒にべったんべったん」



「楽しい餅つき大会」

外来
療育
宇
そ
ら
宙

「餅つきと書初めしたよ」

新年初めの行事、1月6日に行われた「通所餅つき大会」に宇宙の子どもたちも参加しました。いつもとは違う雰囲気のお部屋、賑やかな声、たくさんの人、ちよっぴり緊張している様子が見られました。でも餅つきと言えば「べったんべったん」とリズムに合わせて聞こえてくる杵の音。べったんべったんが楽しくていつの間にか笑顔になって行きました。

さて宇宙では先日1月15日に「書初め」を行いました。お母さんと一緒に好きな色を選び、子どもたちの思いを筆に託しての共同作業…ギョッと身体に力が入る子、筆を見つめる子、絵の具に興味を示す子など様子は様々です。今年の目標として浮かび上がった文字は「遊」「笑」「バナナ」お母さんたちの思いもプラスされ、素敵な書初めとなりました。

こんな風に宇宙のお部屋では色々な療育活動を通していつも楽しい笑顔が響き合っています。それはとっても幸せな時間。その幸せな時間を共に過ごせることが私たちの喜びになっています。これからも宇宙の子どもたちとたくさん笑い、たくさん遊び、共に成長していきたいと

思っています。今年もたくさん楽しみましょうね。

(通所保育士 汐田)



「おいしいお餅になあれ」



「今年1年笑顔で過ごせますように」

メモ帳

【10月】

- ▽4日 福祉フェア参加者の当園見学会(参加者8名) ▽6日 精華女子高等学校看護専攻科小児看護学実習(3名) ▽10/10 ▽11日 福岡特別支援学校中・高等部運動会(本校 参加者1名)
- ▽12日 東久原運動会(利用者各棟2名・職員4名)
- ▽16日 福岡県私設病院協会専門学校看護学科実習(5名) ▽10/31、南福岡特別支援学校通所実習(1名) ▽20日 福岡女子短期大学実習(3名、通所) ▽10/31 ▽23日 福岡県私設病院協会専門学校看護学科1年生 通所実習(1名、10/27・10/30の合計三日間実施)
- ▽25日 久山デー(大名クロスガーデン利用者3名・保護者4名) ▽27日 福岡水巻看護助産学校見学実習(80名)、「虹の家」看護師実習(2名、通所・めぐみ棟)、福岡県私設病院協会専門学校看護学科3年生通所実習(1名) ▽10/28
- ▽29日 直方養護学校高等部2年生通所見学(2名)、精華女子短期大学幼児保育科1日見学実習(43名)

【11月】

- ▽4日 西南女学院大学相談援助実習(2名、通所・相談室、▽11/19) ▽6日 大相撲前夜祭参加(ひかり棟2名)、

福岡医健専門学校作業療法科見学実習(34名)、福岡県私設病院協会専門学校看護学科1年生実習(1名、通所)、福岡県私設病院協会専門学校看護学科実習(5名) ▽11/14、「虹の家」看護師1日実習(2名、通所・めぐみ棟) ▽7日 認定看護師研修(受講生14名) ▽11/9 ▽8日 ボランティア講習会(参加者8名) ▽10日 九州栄養福祉大学作業療法学科3年生実習(1名) ▽11/28 ▽11日 第45回公開講座(参加者50名) ▽12日 第60回日本パプテスト連盟定期総会(天城山荘)、福岡特別支援学校施設実習(1名、通所) ▽17日 福岡県私設病院協会専門学校看護学科実習(5名) ▽11/26 ▽25日 「虹の家」看護師1日実習(2名、通所・めぐみ棟)

【12月】

- ▽3日 第38回福岡県重症心身障害施設協議会(参加者45名) ▽4日 福岡第一ライオンズクラブ支援金贈呈式 ▽5日 第67回福岡市民クリスマス ▽16日 入園児者クリスマス ▽18日 園クリスマス(参加者46名) ▽19日 通所クリスマス(43名) ▽21日 年末街頭募金(12/23、12/24も実施) ▽26日 久山町の少林寺拳法少年拳士の皆さんボランティア来園(20名)、家庭療育期間(▽1/8)

「リハビリテーション課はいつでもウエルカムです！」

荒金幸さんへインタビュー



作業療法士 (OT) の 荒金幸さん

今回は、今年度永年勤続15年表彰を受けられた、作業療法士 (OT) の荒金幸さんにお話をうかがいました。

Q:「リハビリテーション課の紹介をお願いします。」

A:「来られる方のリハビリを担当しています。また、個別の訓練だけではなく、補装具や環境の調整等も行っています。久山療育園に来るすべての人(通所・入所・外来)に関わる仕事です。そして、久山療育園から出かけて行ってさらに人と関わる仕事です。そこがリハビリテーション課の一番の特徴かな。」

Q:「多岐にわたるお仕事ですね!そんなお仕事をされていて、やりがいを感じるのにはどんな時ですか?」

A:「やりがい...うん、やりがいと言っているのかわかりませんが、単純に楽しいですね!久山療育園に

十数年いて、悩んだ時期もあったんです。だけど、今は単純に「明日、この子たちとこんなことしたら楽しそう!」ってことがすぐに毎日浮かぶんです。それがあるから、リハビリをするのが楽しいというか...。そんな感じですね。リハビリって楽しいんですね!

A:「そうですね。長年担当させていたでいて入所者の方でも、未だに新しい発見があったりするんです。みんなが「あれやりたい!」「これやりたい!」っていう手助けをしているというか。一緒に考えてチャレンジをしていくというのは毎日すごく楽しいです。100%へこたれる瞬間も多いですけどね(笑)。」

Q:「作業療法士(OT)を指したきっかけはなんですか?」

A:「そうですね、母が病院に勤めていたり、親戚に薬剤師の叔父さんや看護師がいたりして、小さいころから作業療法士という仕事を知っていたというところもあるかもしれませんね。あとは、自然に。なんとなく(笑)。これだ!というきっかけはなかったですが、実習で久山療育園に来て、ここでのみんなの生活をみたことも一つのきっかけだったかもしれませんね。」

Q:「久山療育園での実習の中でなにか心に残っていることはありますか?」

A:「みんなのはん介助が難しかったことですね!!はん介助だけで一日の実習が終わったんじゃないかっていうくらい強烈に覚えています。時間もかかるし、むせさせたらどうしよう」という不安もありましたし。あとは、みんなの体の形の違いにも最初は驚きました。それと同時に生活そのものの「普通さ」も感じました。一緒に活動したり、バスハイクに付き添ったりもしましたよ。こういうところに作業療法士はいるんじゃないかなっていう感じがしたことは、なんとなく覚えていきますね。」

Q:「休日の過ごし方を教えてください」

A:「休日は一週間のたまった掃除をして、4人の子どもの習い事と学校の行事に奔走します!そして一週間の買い出しをして次の一週間に備える。で、土日が終わる...っていうこともあるし、最近では家族の協力もあって、よく勉強会にも行っていますね。それでまた私のOTスイッチが入って、次の一週間が更に楽しくなったり。若い子たちには負けられません!みたいな感じで(笑)。」

Q:「最後に『愛の手を』を読んでくださっている皆さまへ一言お願いします。」

A:「私の中で今、リハビリテーション課はかなりバランスよく充実してきている感じがします。リハ課のスタッ

「リハビリは楽しい」と終始笑顔でお話してくださった荒金さん。利用者さんの「あれやりたい!」「これやりたい!」の実現のために、リハビリテーション課の皆さんがいてくださるので入所されている方、外来に来られる方、また訪問先の方と笑顔でリハビリに励まれる荒金さんに会いに、ぜひ久山療育園へお越しください。

(事務部総務課 徳淵)

2015年度 行事予定(入所利用者)

☆季節行事・誕生会

Table with 4 columns: 日程, 行事, 日程, 行事. Lists events like Easter, Birthdays, and Christmas for the year 2015.

☆余暇活動 (毎月1回 予定)

- 音楽会(手話ダンス・和太鼓演奏・いろいろな楽器演奏・アートムジカ・フラダンス など)
お話し会(お話し会・紙芝居・人形劇 など)

☆喫茶活動;月1回 (年間 9回)

Table with 3 columns: 4月, 8月, 1月. Lists dates for tea activities throughout the year.

2015年度 行事予定(通所)

- 4月 2日(木) 始園式(保護者懇談会)
5月23日(土) 運動会
6月24日(水) 夏祭り
10月14日(水) 園外活動
10月27日(火) 園外活動
12月18日(金) 通所クリスマス
1月 5日(火) もちつき
1月21日(木) 成人式

・幼児クラス(宇宙)の園外活動日程は未定です

「在宅支援プロジェクト開設準備室の

取り組みと今後の展望」

在宅支援プロジェクト開設準備室長

在宅支援プロジェクト委員会・開設準備室顧問

金子 政彦
宮崎 信義

久山療育園 在宅支援プロジェクトの歴史

久山療育園は、キリストの福音を土台として「重症心身障害児（者）が社会の中心に位置づけられること」を願い、1976年に設立されました。この理念は受け継がれ、彼らが地域社会で生活する人として自分らしく生き、私たちも彼らと共に生きることを目指して参りました。

国の重要な施策として「今後の障害保健福祉施策（グランドデザイン案）」が2005年秋に国会へ提出され、2006年4月に実施（3年間は猶予期間、5年後には完全実施）されました。これは2004年の「三位一体改革」に基づく政策で、①補助金の削減（3・2兆円）、②国から地方への税源移譲（約3兆円、2006年度）、③地方交付税の見直し、以上の三つの施策を同時に行う改革でした。この段階で障害福祉や医療については社会資源が全く不足しており、特に在宅の重症児者

の生存が危ぶまれるものでした。そこで久山療育園では、2004年12月久山療育園評議員会・理事会提案により、「地域生活支援センター構想」が策定されました。その骨子は、①障害保健福祉の総合化（市町村中心の一体的体制、地域福祉の実現）に対しては、コロンイ友の会との連携、通園事業・地域療育等支援事業の深化をはかるため在宅支援事業（ホームヘルプなど）を視野に入れる、②「障害福祉サービス法」（仮称）への制度変更に対しては、（これは障害者自立支援法から障害者総合支援法に繋がりましたが）「障害者支援施設」としての久山療育園の役割と機能の再検討を行う、③5年後の「障害者支援施設」への再編に備えて障害のある人のニーズや適性に応じた支援として、多様なニーズの応えられる多機能型施設へ（「発達医療センター」から「重症者グループホーム」の可能性）の展開を図るというものでした。その

後、2008年度の施設全面改築の竣工を前に、施設の名称を「久山療育園重症児者医療療育センター」へ変更し、2009年度（2013年度）の中期5ヵ年計画、「在宅支援プロジェクト」策定へと至りました。保健福祉施策の変更を受け、久山療育園も2012年度から新体系へ移行し、入所機能は「医療型障害児入所施設」（児童）・「療養介護事業所」（成人）へ、通所機能は「児童発達支援事業」（児童）・「生活介護事業」（成人）となりました。その後も入所待機者や短期入所の必要は現実となり、2009年2月に4床増床、2012年4月に7床増床し、現在94床（医療法）、88床（児童福祉法）+短期入所6床となりました。

開設準備室のあゆみ（表1）

年月	在宅支援プロジェクトの歴史	開設準備室の歩み
1976年9月	久山療育園開園	
2009年4月	中期5ヵ年計画策定 「重症児者地域生活センター」設立構想委員会・準備室、結成 「在宅支援プロジェクト構想委員会」発足	2004年～国の政策転換に対する、思いの対峙検討 在宅支援事業に対する民間協力の必要性
2010年4月		「在宅支援プロジェクト開設準備室」設置 第2次基本計画開設準備室となる現在のメンバーが固まる
2012年9月		
2013年4月		
2014年6月9日	重症者ホーム・在宅支援準備室 入居予定者10名決定 重症者ホーム職員内定	
10月	介護職員等適任研修へ職員を派遣	
12月	第1回入居予定者家族説明会	
2015年1月	グループホーム正式名称が「重症者ホームひびきやま」に決まる	
7月	「重症者ホームひびきやま」開所予定	

表1

2013年4月以降、現在の準備室メンバー（9名）で活動しています。準備室の最優先課題として、まずは2015年7月の重症者ホーム開設に向けた準備が挙げられました。「10名の入居者の生活が、より豊かで安全なものとなるように」、また「働く職員が、誇りと喜びを持って勤めることができるように」ということを準備室の大目標として掲げています。現準備室メンバーは、久山療育園のそれぞれの部署で中堅の働きをしている職員です。忙しい業務の中にありながらも、多岐にわたる細かい準備作業を分担し、心を込めて取り組んでもらっています。

着工以降の取り組み

地に重症者ホームと在宅支援棟を建てる計画が立ち、土地取得、建築許可など困難な手続きを経て、2014年6月に着工しました。建物の建設と併行して、重症者ホーム開設に向けた準備も本格化しました。9月には入居予定者10名が決定し、ホームに配属される職員も内示されました。10月には介護職員の喀痰吸引研修に職員を派遣し、園内での医療技術研修を定期的に始めました。重症者ホーム内で、介護職員による健康管理を円滑に行うための取り組みです。また12月には入居予定者ご家族に対する第一回目の説明会を行い、ホームでの暮らしの概要をお話しています。

今後の予定

現在、建築もピッチを上げて作業が進められており、内装や細部仕様の決定などを順次行っています。また、2015年7月のオープンに向けて入居者10名との本契約締結に向けた準備や、県・保健所の提出すべき事業申請手続き等の準備、重症者ホームでの業務内容の具体化などを精力的に行っています。

今後の展望／在宅支援センターの働き

重症者ホームの課題としては、重い障害を持っておられる入居者10名の生活を、安全で豊かなものとするのが第一です。その為、特に開設初年度は、介護スタッフを重症者の介護に精通している本体の職員から選抜して手厚く配置しています。しかし、その影響で一般のグループホームに比べ、より多くの人件費が必要となり、ホーム単体での収支バランスが取れないという課題があります。重症者介護の質を落とさず、安定的な経営を行うためには課題も多く、国・県に働きかけていくことや全国の志ある方々に継続的な支援をお願いすることなどが必要となります。

また、同時に開設する在宅支援センターの働きをどう展開していくのかも大きな課題です。これまで久山療育園が培ってきたサービスマや支援のノウハウを再構成し、新たな事業展開も視野に入れつつ、在宅重症児者にとってより使いやすいサービスに発展させていく必要があります(図1)。まさに久山療育園の理念の中で謳われている「障害を持った方が地域社会の中心で、生活者として共に生きる」ことを実現する為に、組織として具体的支援を実践するこ

久山療育園と在宅支援センター

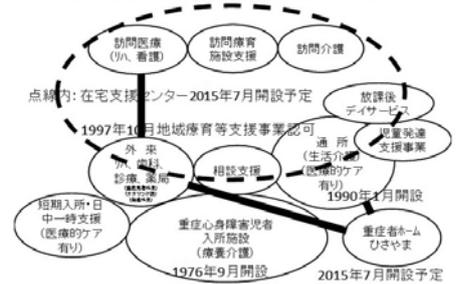


図1

とが求められています。医療的ケアが不可欠な重症児者の在宅支援は、「医療」(診療・看護・リハビリ)と「福祉」(介護・相談支援)が車の両輪となって携わる必要があります。また、地域には重症児者の他にも、発達障害の子どもたちなど、さまざまな障害を持った方々が多くいらっしゃいます。その方々に久山療育園と在宅支援センターがどこまで役割を果たせるか、大きな期待を込めて問われています。これまで久山療育園が40年間培ってきた「療育」経験の積み重ねが、在宅支援の働きでも大いに活かされることを願いつつ、準備室としても私たちが今できることとこれからできることについて、継続的に考えていきます。



杭打ち工事



起工式 2014年6月6日(金) 13:30～



グループホーム2階部分床工事



グループホーム1階部分基礎工事



グループホーム内装工事



グループホーム屋根工事

ボランティアだより

ボランティア紹介・小牟田真帆さん



小牟田 真帆さん

今回は、毎週月曜日・火曜日・木曜日に来られている小牟田真帆さんをご紹介します。小牟田さんは久山の隣町である篠栗にお住まいの方で、以前から医療や福祉に何らかの形で携わりたいという思いをお持ちでした。その思いをボランティアという形で実践されようと、昨年の4月から来られるようになりまして。

活動は通所棟での療育活動への参加や食事介助、午後の本読みなど、幅広く活躍して頂いています。最初はやはり不安感や緊張感があったそうです。ですが、できることをすればいいんだ!と、とびこまれてからは、新しい発見や喜びがあり、とても大切な時間

になっていると話されます。療育活動では製作・散歩・プール・バスハイクなどに積極的に参加されていますが、利用者さんやスタッフがとても元気に楽しんでる様子が驚きだったそうです。午後のリラックスタイムで本読みやお話をしながら利用者さんとコミュニケーションをとることがとても楽しみで、返ってくる笑顔をみることでできた時がいちばんの喜びだそうです。言葉が出なかつたり表情が読み取りにくかつたり、難しさを感じることもありますが、笑顔や全身の動きを通して嬉しさを伝えてくれることがわかるようになってきた、と話されます。

また、保護者の方たちとの交流も楽しみで、お子さんたちの様子や何気ない世間話など、色々話をする中でその明るさや元気に勇気をもらっていると話されます。

ボランティアさん同士でも同様で、沢山の出会いとその広がりがある小牟田さんの元気になっています。

実は小牟田さんは「性分化疾患」という疾患をお持ちです。ホルモンや染色体の異常により、体の発達が典型的な男女とは異なっ

ていたり、第二次性徴が十分に起こらなかったりと、心身ともに性別が曖昧になる疾患で、「男にも女にもなりきれず恋愛もできなかった」と悩みを抱えてこられました。その葛藤についてはとてもここで書ききれないものはありませんが、現在、小牟田さんは「ありのままの自分で生きていこう」と積極的に活動されています。講演会で体験談を話されたり、「NPO法人LGBT(性的マイノリティ)の家族と友人をつなぐ会」や「GID(性同一性障害)学会」にも所属して活躍されています。昨年12月20日の西日本新聞には小牟田さんの紹介記事が大きく載りました。記事の中で小牟田さんは「人は一人一人が違って当然。その違いをわかりあい、認め合えればもっとみんなが生きやすい社会になると思う」と語られています。それは久山療育園や利用者の皆さんが発信してきた思いと重なるところではないかと感じました。そしてその思いを共有される小牟田さんが久山療育園の支援の輪に加わられる事を、とても嬉しく心強く思います。

園に来ると自然に笑顔になれて元気が勇気をもらえる、まるで「聖地」のようなところだ、と話される小牟田さん。今後も楽しい時間を利用者さんやご家族と一緒に分かち合って頂ければと思います。

(相談支援主任 山田)

ボランティア募集

ボランティア活動のご案内
久山療育園には毎年多くのボランティアさんが来て下さり、様々な活動を通して園のためにご協力頂いています。

○活動内容

- ・食事介助
- ・ベッドサイドでの絵本読み
- ・サークル活動、行事への参加
- ・ベッド拭き、車椅子拭き
- ・洗濯物たたみ、縫い物作業
- ・窓拭きやペランダの清掃
- ・入浴後のドライヤーかけ
- ・コーヒール販売

年に2回、久山療育園のボランティアとはどういったものかご紹介する「ボランティア講習会」を開催しております。新年度も次の日程、内容で行う予定です。いずれも同じ内容で行いますのでどちらかのコースをお選びください。

○開催日時

- ・夏季コース 7月11日(土)
- ・冬季コース 11月7日(土)
- 9時30分～15時まで(※昼食はお弁当を用意しております。)

○内容

- ・久山療育園と重症児者について
- ・ボランティア活動の紹介
- ・ボランティアさんの体験談
- ・保護者の体験談
- ・入園利用者との交流

重症児者へ関心をお持ちの方なら、どなたでも受講できます。どうぞお気軽にご参加ください。

【ご質問・お問い合わせ先】

092-976-2281(代)
ボランティア担当 山田(建)

歩行器



クリスマス時期、久山療育園は、全国の関係者の皆様より多くのご献金と共にご献品の品を頂いている。

りんご、カレンダー、ポインセチア、もち米、毛糸を利用した手作り品など、頂いた品目名を並べていると、寒さの中に暖かさを思い起こす鮮やかな赤やオレンジ色の色彩が浮かんでくる。そして、その一つひとつに込められた、重症児者の皆さんの生活の充実を願う思いに強く気づかされる。

地域の企業や事業体からも長年、そして毎年多くのクリスマススケイキを頂いている。

多くの企業の方が、直接園にケイキを携えて来て下さり、皆さんが久山療育園の重症児者の方々に会う事を楽しみに足を運んでいらつしやる光景は、最も久山療育園のクリスマスらしい場面だと感じる。

折しも園舎の窓の外には、在宅支援棟の屋根の建築が進められた時期であった。

これからもこのように寄せられる多くの善意と在宅重症児者とそのご家族へ向けての取り組みが、少しずつ形を成して行き、皆で思いをひとつにしてこの屋根の頂きを見上げたい、と願った。

(T.M)